

卒業式 式辞

高取山に早春の訪れを間近に感じる、この良き日に、本科77回生情報経理専修コース45回生の皆さんとの、寂しくも喜ぶべき別れの時がまいりました。

ただいま卒業証書を授与しました本科18名、情報経理専修コース11名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。担任の先生の呼名に巣立ち行く、ひとり一人の姿を重ね合わせ、校長として感激の思いを募らせておりました。この思い以上に、保護者の皆様をはじめ、卒業生の成長に関わってこられたご家族の喜びは計り知れないこととお察しいたします。あらためて、心よりお慶びを申し上げます。

この長田商業高校で過ごした日々は、皆さんにとってかけがえのない、思い出深いものであったと思います。まずは、本科の皆さんに申し上げます。

振り返れば、皆さんの高校生活はコロナ禍により活動が制限された中でのスタートでした。高校入学当初は初めての商業科目、そして定時制高校という環境に、楽しさよりも不安の方が大きく、何よりもアルバイトが終わってから通う学校生活は自分が思っていたよりもハードだったのではないのでしょうか。しかし、クラスや先生方と過ごす中で、少しずつ新しい環境になれていき、学校が自分の居場所になっていた生徒は少なくなかったと思います。学科改編の創造ビジネス科1期2期生として、たくさんの入学生を迎え入れ、特に3学年においては2学年へ進級した生徒のうち3修制の生徒全てが今日卒業を迎えることができるのはこの上ない喜びであります。夢や目標に向かって挑戦するために資格取得をはじめ勉学は勿論、楽しい学校生活を送る上で欠かせない皆さんの学校行事についても努力を重ねていましたね。まず、せいうん長商ふれあい祭では、毎年得意分野を活かし、1からつくる料理を揃えた模擬店は圧巻でした。昨年、「体験格差」というワードが話題になりましたが、修学旅行では沖縄ならではの民泊、そして他校では体験できないダイビング、リゾートホテルを体験し、更には昨年度新規に実施した遠足や文化鑑賞会についても皆さんの協力のおかげで継続実施できました。そして、何より入学時に2期目を迎えた学校内株式会社 NAGAZON の事業活動を先輩から受け継ぎ発展させることができました。特に、地域のイベントや連携行事にも多数参加協力し、地域との繋がり「地域連携」が一層密になりました。どれもこの長商に入学したからこそ経験できたことではないでしょうか。毎日の学校生活や株式会社 NAGAZON での取組は、挑戦したことや、努力したこと、自らプロジェクトに参加したことで、自分を少しずつ成長させることができ、勉強や行事を全力で取り組んだからこそ味わえた達成感は、これからの人生の中で大きな力になると思います。打ち込めるものをみつけ努力を重ねた時間や、頑張った自分を少し誇らしく思える瞬間も、この長商での宝物としてこれからの人生での中で自分を高めていく良き糧として心に残しておいてください。

次に専修コースの皆さんに申し上げます。私にとっては、今年の卒業生に続き、募集説明会で「長商で学んでください」とお願いした方々で、その方々のうち2年目に入られた方全員が卒業を迎えられるのは感慨深いものがあります。仕事が終わってから、あるいは家庭の用事を終えた後での登校は、時間のやりくりが本当に大変だったのではないのでしょうか。入学

時、職場に相談して入社時間を前倒ししたり、勤務先から往復3時間かけての登校など、時間と学業のバランスをとりながら2年間頑張れた自分を是非褒めてあげてください。この度の卒業生の声を紹介します。「考えていた以上に苦しい毎日でした。週五日連続して通学すること。全く初心者にとっての簿記をはじめとにかくやるしかない、勉強しなくては、という毎日でした。一週間は長かったです。土曜日曜が休みでも復習には時間がかかり、ろくに進まないまま、翌週に突入していました。一週間は長かったけれど二年は短かったです。今までで一番勉強しました。新しいことを学ぶことがこんなに楽しい事だと初めて気づかされました」。人生100年時代という言葉がありますが、「自分の状況ややりたいことに合わせて学び続けていく」という姿勢は私達にお手本を示していただいているように感じておりました。このように、時間に追われながらも様々な学校行事があるわけですが、その参加率が日に日に上昇したことは勿論、先日の活動成果発表会では4年生の方が授業の取組をチームでプレゼンして下さったこと、そして本科生徒との交流会では本科の生徒が目をキラキラして聞いてくれたこと、大変嬉しく印象に残っています。卒業後は、本校で得た商業の知識やスキルを生かしてご活躍され、地域や社会において有意義な人生を送っていただきたいと思います。出会った方々との御縁を大切にされ、新たな一步を踏み出されることを期待しております。

さて、卒業とは終わりではなく、新しいステージの始まりです。これから皆さんに、心にとめておいてほしいことを2つあげて饒(はなむけ)としたいと思います。

1つ目は「出会いを大切に感謝する」ことです。私の人生を振り返る時、現在に至るたくさんの方岐点には、必ず大切な人との出会いがありました。多くの出会いに支えられ、また、その時々進む方向、すなわち運命を作ってくれた出会いに深く感謝しています。

このような視点で皆さんが今日までの道のりを考えるとき、ご家族はもとより、恩師や友人をはじめ様々な人々との出会いがあったと思います。その出会いが、あなたの考え方や行動に変化をもたらし、成長のきっかけとなった経験があると思います。たまたま同じクラスになり、今では大親友だという出会いは、偶然か必然かに関わらず、まさに運命の糸によって結ばれたといえるでしょう。自分がどれだけ多くの出会いに支えられているかを意識し、その影響を感じ取ることはとても重要です。今日の卒業の喜びも、皆さんのたゆまぬ努力の結果であることは言うまでもありませんが、多くの方々の愛情と支援があったことを忘れず、感謝の気持ちを大切にしてください。そして、これからも様々な出会いが待っています。出会いを通じて得られる学びや経験が、あなたの未来の選択肢に影響を与えてくれるはずで、これからの出会いに期待し、その時々相手に対して、決して奢らず、謙虚さを忘れずに、感謝の気持ちを持って接してくれることをお願いしておきます。

2つ目は自分を大切にすることです。皆さんはかけがえのない人生の主人公です。他者との関わりの中で、迷った時や苦難に直面した時、周囲の意見や社会の評価に流されず、自分の内なる声に耳を傾け、無理をせず、自分に正直に自らの意思で選んだ道を大切にしながら自分のペースで歩いてください。自分を大切にすることは自分への自信になります。そして、悲しくて、辛くて、苦しくて、息が詰まりそうな時こそ、自分の弱さを受け入れ、休むべき

時は休む勇気を持つこと、苦しい時には助けを求めること。上手くいかなかった自分を責め続けるのではなく「よく頑張っている」と認めてあげることです。それもまた自分を守る大切な選択です。皆さんの命はかけがえのないものです。そして、自分を尊ぶ人は他者をも尊ぶことができます。一日を通じて、昼間は、社会での経済活動に精を出し、夕刻から級友と学びに励んでこられた皆さんだからこそ、様々な人々の喜びや悲しみ、人生に寄り添い、喜怒哀楽も感じてこられました。その経験は相手の立場を思いやる心を皆さんの中に育ててくれたはずで、これからの人生において、様々な苦難に立ち向かいながらも、自分の命を大切にしながら、支え合える人であって下さい。

最後になりましたが、保護者の皆様一言申し上げます。お子様には本日のご卒業を迎えられたこと、誠におめでとうございます。私どもは、お子様をお預かりして三年間、不十分な点もあったかとは思いますが、全力で教育にあたってまいりました。ここにいたるまでに賜りましたご理解、ご支援に対し、この場を借りて深く感謝申し上げます。何よりも、私どもは、素直で素晴らしい生徒と、この長田商業高校と一緒に生活できたことを誇りとし、嬉しく思っています。

また、ご来賓の皆様方には、ご多用の中、ご臨席いただき、巣立ちゆく卒業生の門出を祝福していただきますことに厚くお礼申し上げます。本校が、特色ある教育活動を推進できますのも、皆様方の温かいご理解とご支援の賜と深く感謝いたしております。今後も、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、いよいよ新たなステージへ旅立ちの時がきました。皆さんの人生は素晴らしいものであるとともに、時には厳しいことを経験するかも知れません。嬉しいときや悲しいとき、迷うこともあるに違いありません。そのような時、いつでもこの長田商業高校を思い出し、訪れてください。皆さんが過ごしたこの学舎(まなびや)や先生方は、温かく皆さんを迎えてくれるはずで、長田商業高校は、そのような学校であり続けたいと強く思っています。

ありがとうという感謝の言葉を懐に抱いて、皆さんが卒業後、十年、二十年と、年を重ねていきながら、我が人生の学びの原点は、長田商業高校での学びであったと実感されることを信じ、本日、長田商業高校の校門を出て、素晴らしい人生に繋がる道を、胸を張って進んでください。皆さんの新たな一歩と、それに続く未来が光輝くものとなることを心から祈念し、最後の式辞といたします。

令和8年3月3日

兵庫県立長田商業高等学校
学校長 松本秀孝